

九州女子大学
人間科学部 人間発達学科 人間基礎学専攻

平成 31 年度 社会人入学試験 I 期
編入学試験 I 期
社会人編入学試験 I 期

小論文

九州女子大学 人間科学部 人間発達学科 人間基礎学専攻

社会人入学試験Ⅰ期

平成三十一年度 編入学試験Ⅰ期 小論文 試験問題

社会人編入学試験Ⅰ期

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

幸せについてのアドラーの回答は「他の人を幸せにすること」である、と始めにいいました。でも、こうして一人ひとりの「幸せを感じたとき」を聞いてみると、それぞれに幸せの瞬間も違いますし、どういうことで幸せを感じるのかということもまた違うということがわかります。振り返ってみましょう。

ダンスを発表したときが幸せだったという方は「まったく知らない人たちから拍手喝采を浴び幸せだった」と言っています。応援してくれた人たちとの「つながり」のようなものを感じたことが幸せに結びついたようですね。

友人の肖像画を描いたという方は「自分も描いてほしいと言われたことが幸せだった」と言っています。他の人が喜ぶようなことを自分がしてあげられたということが幸せにつながったようです。

イベントを企画していた方は「みなさんが心から楽しめる催しを開催できて幸せを感じた」と言っています。自分の企画したイベントが人を喜ばせたということが幸せにつながっているようです。

このように見ると、共通点があります。それは、こういうことです。

(1) 自分の能力を発揮できること

(2) それが他の人のためになっていること

ひとつめは「自分の能力を発揮できること」です。それは、踊ることであつたり、絵を描くことであつたり、イベントを企画することであつたり、人によってさまざまです。しかし、ひとつ言えることは、自分の能力を存分に発揮するということが、幸せにつながるということです。

そしてもうひとつは「そのことが他の人のためになっていること」です。ただ自分の能力を発揮するだけではなくて、そうすることが他の人のためになっていること、他の人を喜ばせること、つまり、他の人を幸せにすることによって、自分の行為が幸せにつながるということなのです。

もちろんこれとは違うケースもあるでしょう。前の例を見てみると、赤ちゃんを産んだときや、部活に熱中していたというようなことも、幸せだと感じる瞬間になります。しかし、このようなケースでも、赤ちゃんを産むという能力を発揮して、まわりの人を喜ばせたと考えることができます。

また、部活に熱中するという能力を発揮して、いつもは口うるさい親をほっておかせたわけですね。

いずれの場合も、自分の能力をどう発揮するかということと、それが他の人とどう関わるのかということがキーになっているのです。

出典 向後千春『アドラー「実践」講義 幸せに生きる』今すぐ人生に効く9つのワーク』、技術評論社、二〇一五年

問 本文の内容をふまえ、「幸せ」について、あなたの考えを五〇〇字以上、六〇〇字以内で述べなさい。